

令和 8 年度 第 1 回 加賀市総合教育会議

招 集 日 時 令和 8 年 4 月 23 日（木曜日）午後 3 時開会／午後 4 時閉会

招 集 場 所 加賀市役所 2 階 201 会議室

出 席 者 山田利明市長

松本向貴教育長、篠原隆一委員、山下裕嗣委員、新滝有紀子委員、川向恵委員

会議列席者 教育委員会事務局 小林事務局長、伊藤政策官、新家次長兼学校指導課長、園田教育総務課長、
寺山地域学びスポーツ課長、庄田中央・山中図書館長、東九谷焼美術館副館長、山下教育総務課リーダー

令和 8 年度第 1 回加賀市総合教育会議開会宣言

○園田課長 令和 8 年度、加賀市総合教育会議を開会いたします。はじめに、山田市長からご挨拶申し上げます。

○山田市長 皆さんこんにちは。本日は、加賀市総合教育会議を招集いたしましたところ、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。教育長、教育委員の皆様方には、日頃から加賀市の教育に対しまして多大なご尽力を賜り、改めて御礼を申し上げます。ありがとうございます。皆様もご承知のとおり、加賀市は 2023 年から BE THE PLAYER をスローガンに、子ども達が主役の授業へと市内全小中学校で学びの改革を進めてきております。2025 年 4 月に引き続き、文部科学省から松本教育長をお招きし、前教育長が取り組んでこられた改革の勢いをさらに加速させるとともに、学びが楽しいものであると感じられる教育を目指し奮闘いただいているところでございます。さらに本年 4 月からは新たな教育ビジョンのもと、子どもを取り巻く様々な課題に対応し、学びの基盤を保障していくために取り組んでいただいております。子ども達を取り巻く環境に目を向けてみますと、少子高齢化による児童生徒数の減少、予想を超えるスピードで進む AI などの技術革新、グローバル化などの状況はそのスピードを加速させ、変化し続けております。このような背景から、子ども達の放課後や、学校の在り方、教員の多忙化、AI の活用とリテラシーの問題など、加賀市においても様々な課題があると認識しております。それらの課題に真摯に向き合いながら、予測困難なこうした時代において、目まぐるしい環境の変化にもしっかりと対応していけるような人材を育てるための基礎づくりとして、一人一人、それぞれの可能性を最大限に開花させる教育を推進していきたいというふうに思っております。さらに先日、実施されました全国学力学習状況調査におきましても、特に学習状況、子ども達の放課後、家庭ではどのような状況なのかというようなこと、その変化をしっかりと分析することも大切なことと思っておりますし、また郷土学習を教科の領域で積極的に行って、故郷に誇りを持つ、シビックプライドを育んでいきたいというふうに思っております。地方教育行政法に基づいて設置しておりますこの総合教育会議は、市長である私と教育委員会の皆様とが、地方教育行政の責任を共有するパートナーとして加賀市が取り組むべきことについて議論する場でございます。本日の会議が加賀市の教育、そして子ども達たちの未来にとって実り多きものとなることを心より願い、開会のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○園田課長　それでは進行を事務局の方で行っていききたいと思いますですが、よろしいでしょうか。

○委員　お願いします。

○園田課長　それでは引き続き事務局の方で行わせていただきます。本日の議事は2件です。

初めに教育大綱についてですが、まず教育ビジョンについて、教育長よりご説明をお願いいたします。

● 加賀市教育ビジョンについて

松本教育長　資料に基づき説明

○園田課長　次に、教育大綱へ位置付けることについて、事務局から説明いたします。

● 教育大綱への位置づけについて

園田課長　資料に基づき説明

○園田課長　ただ今の教育大綱について、皆様方から、ご意見などはございませんでしょうか。

それでは、加賀市教育ビジョンを加賀市教育大綱に位置付けし進めてまいりたいと思います。

続いて議事の2つ目、「業務量管理・健康確保措置実施計画について」、新家教育委員会次長兼学校指導課長より説明をいたします。

● 業務量管理・健康確保措置実施計画について（報告）

新家次長　資料に基づき説明

○園田課長　ただ今の業務量管理・健康確保措置実施計画について皆様の方から、ご意見などはいかがですか。

○山下委員　この案については誰が主体中心となってというのが、校長なのかとか、逆にそちらに負担がいかないようになにか検討されているのか。計画があってこれを最終的にまとめるのが教育委員会なのか、校長なのか、ちょっとお話ししたいしたいと思います。

○新家次長　学校のことは校長です。全体的なものは教育委員会の方では示していきます。やはりまとめる方が負担にならないように、それは心がけてやっていきます。

○園田課長　他、ございませんか。

○篠原委員　従来から加賀市においては、教職員の負担軽減のためにいろいろな市独自の予算措置をしていただいて、特別支援員が非常に充実していたり、あるいは校務の補助員みたいな方の配置をしていただいたり、あるいは図書館司書も全校配置をしていただいたりということとでいろいろなご配慮をいただいているわけなんですけれども、学校の教職員はいろんな多面での業務を抱えていらっしゃると思いますので、大変精神的にもあるいは肉体的にもお疲れじゃないかなと思います。加賀市は十分にご配慮をいただいていますけれども、加賀市としての独自の様々な学校の教職員支援の予算措置化みたいなところをぜひ個人的にはお願いをしたいなと思っております。それがやはり今後先生方の本来の業務というとおかしいですけども、いわゆる子ども達の指導の中身にあたること、そういうことについての指導の研究をしていくということ、

それらについて非常にプラスになって力強い支援となっていくと思いますので、やはり先生方が精神的にも肉体的にもストレスを抱えないで、学校生活というか、子ども達の指導にあたっていくための基盤整備をぜひ教育委員会あるいは市当局の方で予算措置をしていただいて、これまで以上に充実した支援をしていただけないかなというふうにお願いする次第であります。

○園田課長　今の点につきまして私の方から少し説明をさせていただきます。これまでエアコンの掃除であるとかワックスがけも先生のご負担だったということで、そちらの方も少し十分ではないかもしれませんが、総額で400万円前後の予算を付けさせていただいて、外部の業者の方に委託できるようなところも最近はじめております。引き続き、先生の負担軽減につきまして、財源には限りはありますが、できる限りの知恵を出していきたいなというふうに思っております。

○篠原委員　ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○園田課長　他、ございませんか。ないようでしたら、それでは本計画に基づきまして教職員の健康、福祉のさらなる増進を図ってまいりたいと思います。

本日の会議の議事は以上であります。せっかくの機会ですので、皆様方で意見交換があればお願いしたいと思います。

○篠原委員　市長さんも以前の教育長さんであったとき、あるいは次長兼学校指導課長さんをやっていたときになんかにもなさっていたんだと思うんですけども、いわゆる学校規模の適正配置ということがこれからますます大切になってきております。今はちょっとストップしている状態なんですけれども、小さければ駄目だということでは私はないと思っているんですが、例えば、学校規模の適正配置は小中学校だけではなくて、その下の幼稚園保育園、認定こども園とかそういうところも踏まえて、全体的に加賀市の子ども達、幼児も含めてですね、どういうかたちで各施設の適正規模に持っていくのかということもトータルに考えないといけないと思います。特に小中学校だけではなくて、幼小保の連携をぜひこれからも続けていって、学校規模の適正配置というところを今後も進めていっていただきたいというふうに思っています。やっぱりひとつの方向としては、能登地区なんかもどんどん人口減になっていて、珠洲市は義務教育学校をどんどんつくっていったらという実情があります。加賀市においても、将来的には1中学校区1義務教育学校でも私はいんじゃないかなというふうに考えております。例えば山代小学校なんかでは市長さんご存じのように、校舎自体が非常に老朽化しています。確かに新しい校舎をどこかにつくるとなってくると大変な財源的な措置もいりますけれども、それも十分にわかった上で、まずは山代地区、次の錦城地区も一緒なんですけど、錦城地区も錦城と錦城東とに分かれていまして、前は緑が丘小とか三木小とかが、地元のご理解があって何とかそれぞれ適正規模ということで合併させていただきましたけれども、まだまだやはり他の地区もそういう状況が続いていて、複式学級だとか、あるいは完全複式学級だとかという学級も加賀市内にいっぱいあると思うんです。そういうことも踏まえてぜひ市長部局と連携をしながら、学校規模の適正配置ということについてお考えいただけないかなというふうに考えておりますので、市長、ご意見いかがでしょうか。

○山田市長　皆さんには今月の初めに成人式に来ていただきました。成人式、二十歳の対象人数は624人、昨年生まれたお子さんの数というのが200人台、300人もいないというその中で、同じ学校数があるということ、最近一番近いところでは三木小学校が閉校になりましたけれど

も、それでももう10年経っているということで、その間ずっと学校には触っていなかったわけですね。その中で対象の子ども達が確実に、私が学校指導課長をしていたときの予測より随分早く子どもが少なくなっている中で、学校が変わらないというわけには私はいかないと、篠原委員のおっしゃるとおり、何とか進めていかないといけない。もちろんこれは地元のご理解がないと絶対にできないことなので、今年度、もし財政に関わることなら私が、教育長と一緒に地域に出向いてご説明を申し上げたりしたいなというふうには思っておりますが、それは確実に、今年度以降進めていかないといけないと私は思っています。あともうひとつ、幼稚園保育園のこともありました、幼稚園保育園はちょっと学校と違うのは、法人立というのがありますね。ですからその公立の数が少なくなってもその地域にはやはり法人立があるので、学校よりは難しくないところもあるのかなと。そこは担当の方で今、地域に説明に入ろうというようなことで計画を立てていると思います。とにかくこれだけの子どもが少なくなっている現実があるのに、現状のままではいけないということなので、教育委員会と一緒に連携しながら、どのように進めていけばいいのか、そしてどのように地元に入っていけばいいのか、そして地元のご理解を得ていかないといけないということを、早急に動きたいなというふうに思っております。併せて、今、山代小学校のことがありますが、山代小学校の校舎は危機的な状況です。壊れたときにも部品がないとか、修理がもうきかないとか、配管が詰まって、トイレは息を止めて入らないといけないようなトイレですから、やはりあそこに生活している子ども達の幸せということを考えたときには、さあ東谷どうする、さあ勅使どうする、さあ庄どうするという議論も一方で進めながら、確実に改築というところは、これは財政に関わることなので、市長部局の方になると思いますが、もちろん教育委員会と連携しながら、どのように進めていけばいいのか、議論はもういっぱいされていると思うので、もうかたちにしていけないといけない時期だと思うので、それはぜひ進めていきたいなというふうに思っています。

○篠原委員 ありがとうございます。大変前向きなお答えをいただきまして嬉しく思っています。特に私は市長さんも以前いらっしゃった山代小学校については危機的な状況であることは十分存じ上げています。地元の方からの要望もたぶん出てくると思うので、やはりただそのときに新しい学校づくりに合った学校校舎といいますか、教育ビジョンに合ったそういうモデル的な校舎をつくって、そうすれば例えば東谷の方とか、勅使の方とか、庄の方なんか、いい学校ができたねと、じゃあそこに行こうかと。皆さんが行きたくなるような学校ですね。もちろんソフト面では本当に先生方、教育長さんのご指導のもとに、先生方が頑張って新しい取組みに邁進していらっしゃいますけれども、それにふさわしい校舎といいますか、そういうものもそろそろ考えていただけないかなというふうに思ってます。それから私が大聖寺地区に住んでおりますので、大聖寺地区も同じように、特に錦城小学校があるところは、文化的にも旧藩邸ゾーンで大変大事なところなので、そこについてもやはり抜本的に考えていきながら、私が錦城東におりましたときには、耐震工事があったときなんですけど、その配管業者の方が、先生これはもうぼろぼろで本当に怖い状況だと。配管に関して、トイレ設備でもそういう水道設備でも、もう怖い状態だと。錦城東が錦城小よりも先に建てられたので、そういうことでもう錦城東も大分耐用年数がきているような状況なわけです。というようなことも踏まえてやはり新しい学校をどんどん、予算的ないろんな問題がたくさんあることは十分にわかっておりますけれども、教育の先進としてある加賀市ということで、今ソフト面では前教育長さんが頑張っ

ていただいて、非常に全国的に名前も売れてきて、全国からもたくさん来ているので、これにふさわしい、今度はハード面もぜひ山代地区をはじめとして、次の錦城地区なんかも考えていただけないかなというふうに、これはお願いでございます。

○松本教育長　具体的な考えをもっていかないとというお話もちらっとあったかと思います。篠原委員もおっしゃったとおり、小さければ駄目とかそういう考えではないなと思っておりまして、逆に他方で中規模大規模だったら駄目ということでも当然ないんだというところが、今教育委員会のおっしゃっていた総意かなというふうに思います。単純に人数規模だけで計算すると、子どもの数が300人を切ったというお話がございましたが、遠くないうちに、あくまでも単純計算すれば、市内で中学校1校でも別に収まるような子どもの数になってまいります。まさに小さければ駄目でもない大きければ駄目でもないので、やってみせろと言われれば教育委員会は中学校1校でもいい教育をつくってみせようというふうに私は思っております。ただ他方で、まちづくりという観点から、市内中学校1校という姿が現実的とは私は思っていないところなので、まちづくりという観点で市長が何かその辺に関してお考えがあったらあらかじめ伺っておきたいのですが、いかがでしょうか。

○山田市長　私はやはり地域に今6中学校ありますよね。6中学校は規模の縮小はあるかもしれないけれども、何とか維持したいなというふうに思っています。これはやはり地域の核という、文化の中心、そして子ども達が例えば加賀温泉の前に中学校がひとつできて、みんながバスで通ってくるというそういう姿というのはあまり想像ができないんですよ。地域に根差したというようなところがありますので、やはり中学校は維持したい。あとは小学校に関しては、本当に少なくなれば、1中学校1小学校ぐらい、東和はちょっと2つになるかもしれないけれども、本当にこのまま子ども達が減っていけばそういうことも考えられるんじゃないかなと思います。私はそこまでは今現実的ではないと思いますが、子ども達の数が減っていくとそういうことも考えられるわけではないかというふうに思っています。やはり小学校が過小規模になって、完全複式になって、先生方の業務というのも複式になると格段に多くなるし、PTAを理由にするのはちょっとあれなのかもしれませんが、PTAの役員なんかも、3年に1度回ってくるとか、そういうようなことになって、保護者の負担もどうなのかなということとか、いろんなことを考えれば、環境整備で、今度の日曜日に草むしりをしますよと言ったときに、1人当たりの面積というのは非常に増えますよね。そういうような細かいことも含めて、運営が非常に難しくなってくるというふうに思うんですね。ですからそういうことも考えながら、具体的には今お示しできませんが、教育委員会と連携しながら、統廃合、先ほどいいましたような適切な規模、ある程度の規模を維持できるような統廃合をしていくような努力をしていきたいというふうに思っています。もちろんこれは各地域のご理解が前提です。反対があるのにするということのようなことは適切ではないのかなと思います。

○篠原委員　私も市長さんのお話とほとんど共通認識なんですけど、やはり先ほどもちょっと言いましたけれど、魅力ある学校というのはやはり大事なことで、地域の方でも、うちの地元にはなくなったかもしれないけれど、そこへ行けば立派なきれいな校舎があって、みんなで楽しく勉強しているような様子がうかがえるよというようなことであれば、地域のご理解もますます得られるんじゃないかなというふうに思っています。ですから少々ハード面での予算措置は必要なんだろうと思いますけれども、ぜひ魅力ある学校、まずハード面での魅力ある学校をつ

くっていただければ、皆さんがあそこに行きたいなと。なんだったら特認校にしてもらって、今の橋立海青学園みたいな感じで、どこでも行ける、子ども達が保護者が選べるような、フレキシブルな柔軟な学校づくりなんかもしていくと、加賀市だけではなくて他市からあるいは全国的にもこの学校に行きたいなというような、そういう学校をどんどんつくっていきけるような、なにか学校の適正配置というと暗くなって、できれば明るい未来が保護者の方に見せられるような、あるいは地域の住民の方に見せられるような、そのようなプランというか、そのような計画をぜひつくっていただけないかなと最後のお願いであります。

○園田課長 他、ございませんか。

○山下委員 山中は特に温泉地区の方が、4月1日の加賀市の統計で見ると、70代が19%いて、2番目に80代が15%いて、次が60代で14%、それだけで半分超えているんですね。そして山中温泉旧の山中小学校校区ではもう若い人がいなくなるという状況で、山中でも、市長がおっしゃったように山中の学校がなくなるのかなというのがあったんですけど、私はそれよりも、現実的に見て、今、各学校は1つ1つの学校に固定費もかかっているわけです。そして1つの学校にそれだけ職員の配置もあるわけですね。この4月から河南小学校はマイナスで出発したらしいんです。教員がマイナス1と校長先生がおっしゃっていて、それもどんどん増えてくるだろうと思うので、私は山中はもう中学校は新しいからそこに9年生をおいたらどうだとずっと言っているんですけども、特に温泉地区が高齢者になってくると税収が入らないんです。税がどんどんこれから入らなくなってくる状況の中で、やはり固定費はどんどん減らすべきだと思っているので、統廃合計画を早めに出していただきたいなと。他地区はまだそこまでいっていないと思うんですが、山中は危機的状況になってしまっていますので。また別のお話ですが、これは山中温泉地区に限ったことなんですけれども、教育委員会でも少しお話ししたんですが、市の除雪計画の中に歩道除雪が全く入っていない。今この市の除雪計画を見ると、歩道は各住民が身近な歩道の除雪を行うとなっています。通学路は、住民やPTAが行うとなっています。ここに市が全く絡んでいないんですね。他市を調べてみると、市が協力してとか、市の計画路線の中に歩道除雪路線が入っている市がたくさんありますので、その辺、今後、少し市の除雪計画の中に歩道除雪、特に教育委員会は通学路を上げていただきたい。といいますのは、山中温泉は中学校に向かうのに、今の宮の杜地区に中学生が結構います。あその間が家がないんですね。そして大きな除雪車で雪が除けてあってどうしても車道を通らざるを得ないし、朝の通勤の方々が結構飛ばして通る中に、子ども達が危ないのを何度か見ているので、歩道はといったら宮の杜の町内会の小型除雪で日曜日に開けていらっしゃった方もいますが、宮の杜までなんです。上原に入ったら開けていなかったんです。だからこれを計画的に市がしろというのではなくて、市が市の歩道除雪計画路線を出して、それに市が指導をして、毎月まちづくりとかと共同で除雪計画路線として除雪をすると。朝、通学時間までに除雪するという計画を立てていただきたいなというのは1つの意見でございます。もう1つ、それに関して、山中温泉地区は、以前山中町の頃は大変予算があって土建屋さんにどんどん外注して、除雪が早かったんですね。いま市に依頼をしたら、じゃあ除雪車を3台貸すので自分でやってくださいと。私もオペレーターをさせていただいていますけども、オペレーターの人材が不足していると、高齢化しているんですね。市の方にも、除雪オペレーターの助成事業というのは入っているんですけども、これが各事業者となっているものですから、業者が新しいオペレーターを委

託するのというもので、民間でも例えばまちづくりで出したいときに、これはあくまでも自分は業者ではないわけなので、町のために除雪の機械を操作するのというのを、除雪オペレーターが、個人でもそういうような事業に参加できるのかなと。これもちょっとまだ流動的で、たぶん言えばできるのかもしれませんが、それをもう少し柔軟にしていきたいなど。早急にオペレーターを養成していかないと、オペレーターをとりました、じゃあ除雪できますというのではなくて、やっぱり経験が結構必要だと思いますので、除雪オペレーターの方とそれから歩道の方と早急に検討いただきたいというのが私の意見であります。

○**山田市長** 歩道に関しては、私が保護者だったとき、子どもが小学生のときは町内放送がかかって、朝に除雪したり、夜に除雪したり保護者がみんなでやった覚えがありますし、学校に勤務していたときには、学校の周りの歩道とかは朝早く来た職員がやっていました。自分が教員をしていたときには、駐車場の除雪を子ども達がスコップでやっていました。そういうようなところで、それぞれが出せるところで力を出し合っていたというようなことだと思うんですが、そのうちにやっぱり子どもを使うのはどうだろうか、車に傷つけたらどうだとか、いろんなことがあって、そこが難しくなって、保護者も朝5時集合というのはなかなか今できなくなってきて、状況が以前とは変わっているというようなところなんです。行政はマンパワーはもう今はないです、本当に。除雪の計画に関してもその幹線の道を空けるのが今精いっぱい、土建屋さんに頼んでやっているのが精いっぱいなので、どうやればいいのか。今、私が引き取って建設部に投げかけたところで、私は良い答えというのはなかなか返って来るのは難しいと思うんですね。歩道除雪については一応こういう話があったというようなことは建設部に投げかけますが、ではどうすればいいか、人がいない、土建屋さんに頼むのもちょっと金銭的というか予算措置もちょっと難しい。ではどうすればいいんだろうというところで止まるんじゃないかなというふうにして思っているのがひとつ。あとオペレーターの話は今ちょっと引き取らせていただいて、オペレーターを増やすには、ご提案をいただいたようなことをまた建設部に投げかけてみたいというふうにして思っています。現実にはちょっと本当にしたいのは山々で、車が通る車道を子ども達が歩いているというのは、いい状況ではないことはわかっております。

○**山下委員** 他市も同じだと思うんですけど、他市の除雪計画の中の歩道除雪に、計画路線として一応策定はして、地域住民と協力をしてという文言が入っているんです。加賀市の場合は、住民がだけなんですよね。そこに市がある程度、指導ではないですけど、なにか文言があれば、市の方からある程度やってねとか、山中の場合は各町内会で小型除雪機を持っていますので、その辺の協力体制ができるような文言が加賀市の除雪計画にあると、まちづくりもやりやすいのかなと思います。

○**園田課長** 他、ございませんか。

○**川向委員** 4月から自転車の交通反則通告制度導入にあたり、生徒たちが安心して自転車通学ができるようお願いなんですけれども、通学路には自転車が歩道を走るべきなのか、車道を走るべきなのかちょっと大人でも判断しづらい箇所もあろうかと思います。事故防止のためにも、学校周辺とか通学路とか、そういった場所に、歩道と車道の区分けがわかりやすくなるような表示とか案内とか、設備をご検討いただけたらうれしいかなと思います。

○**山田市長** 今は13歳以上は車道ですよ。12歳までが歩道でいいというかたちで、ヘルメットを必ずはめるというようなことになっていると思うので、基本、中学生は車道を走るので

すよね。

○篠原委員 教育委員会の定例会のときにも質問したような記憶があるんですけども、道路交通法が改正されるということで、中学生が危ないと。歩道と車道のところで、自転車専用通行帯があれば、まだ少しは車の運転者さんも配慮してくださると思うんですが、今は何もない状態で、もちろん軽車両ですから、道路を走らないといけないんですけども、例えば私みたいな高齢者になってくると、歩道を走ってもいいんです。70歳以上はいいという文言を目にしたことがあるんですけども、1番気になるのは中学生の通学で、私も歩道を歩いていると自転車でびゅーとくるので、怖いことは怖いです。でも今、法律を守ってやっていくということになってくると、やはり逆に運転者の方も非常に気を使うというか、そういうようなことが起きてきています。事故が起きないといいなということをいつも思っているんですけど、加賀市だけで道路はこうできることではないですけど、県とか国とかにお願いをしていって、一刻も早くそのような状況の中で道路整備をきちんとしてほしいということを、また市長さんから、あるいは担当の部局にあげていただいて、ハード面の整備をしていただけないかなと思います。それから通学路についても、どうしても指定の通学路になってしまいます。そこを通らないといけないものですから、そうなってくるとできるだけ車が来ないようなところを通学路指定にしてあげるとか、そういうことも学校で大事なんじゃないかなというふうに思いますけども、いろんなことを合わせながら、特に今回の道路交通法の、特に自転車に関しては、非常に大きく子ども達の日常生活に影響しますので、もちろんスマホを見ながらとか、傘をさしながらとか、そういうふうな運転はもう完全に駄目で、どんどん取り締まってもらえばいいと思いますけども、それ以外のところではちょっと配慮してあげて、例えば中学校の間で歩道を通れるようなかたちで、特例として学校の登下校ぐらいのときは認めてもらえるとか、国のレベルなので大変難しいかもしれませんが、いろんなことで実情に応じたことをまた国や県にぜひ上げていっていただけないかなというふうにお願いしたいと思います。

○山田市長 県道ですね。わかりました。担当部局に伝えておきます。

○園田課長 他、ございませんか。

○新滝委員 篠原先生もおっしゃってくださった学校の適正規模というのは私もすごく思っていて、やっぱり住んでいる場所で、受ける教育の質が変わるというのはあってはいけないと思っています。それはさっきおっしゃったみたいに大きいからいいとか小さいからいいとかではなくて、市長の考えもお聞きできたのでそれはいいかなと思うんです。やっぱり教育の質というのは、教員の数とか、目指される方の資質にもつながってくるかと思っていて、この間の成人式でも、読まれた方がすごく頼もしい限りだったと思うんです。加賀市の公立学校の先生になれる方はやっぱり加賀市小松市の方が多いいですね。だからふるさと教育ももちろん大事で、いろいろ産業のことも授業でされていると思うんですけど、やっぱり教員を目指すという人をいかにつくっていくかというのがすごく大事かなと思うんです。教員になられた人が脱落しないでというか、教員に新卒採用でなられて立派に先生となっていかれるというその教育の過程というのはすごく大事だと思っていて、世の中は転職の商業的ばかり流れてくるんですけど、教員というのは本当に特別な仕事であってほしいと思っていて、なられた方は本当に全うしてほしいと。今日の資料でも残業というか、時間外の話とかがすごく目に止まったんです。今、360時間とか一般企業の36協定の数字かなと思うんですけど、定時からみても特

別多いかというところでもないと思うんですけど、やっぱりそこに申告できていない残業というのがきつとあるんだろうなというふうには思っています。さっきのエアコンの話とかを聞くと、そこまで先生がされているんだなということで、実態というのは本当に一般の人の耳には届かないところもあるというのをすごく感じました。PTAも今人数も少ないのでできないかと思うんですけど、エアコンとかは協力体制でできないかなというのは思いました。それから、先生の幸せというのがすごく抽象的な話ですけど、プライベートの時間が増えたら幸せなのかという、幸せは自分の心が決めることなので、こういったことで定義できることではないと思っています。でも教員という仕事を通じての幸せということを増勢していきたいというか、先生という仕事を通じて、働きやすさばかりではなくて、働きがいということをやっぱり先輩の教員の方とか、市長がもっともっと、元々先生であったし、そういう教員という仕事の存在意義とか、この会議を聞いていても人口は減るとか、悲しい感じになってきて、先生の仕事って大変なんだと、ブラックだとかそんな話はもうあんまりしない方がいいかなと思います。やっぱり未来ある子どもを預かる仕事というのがこんなにすばらしいんだという、先生の携わっている仕事の重要さ、すばらしいお仕事だということを、今の若い人たちに言って目指してもらえようになったらいいなと思いました。

○園田課長 他、いかがでしょうか。

(学校の安全に関するこのため、非公開)

○園田課長 他、いかがでしょうか。

○山下委員 ちょっと教育とは離れたところというか、遠くで繋がるんですけども、こうやって加賀市で一生懸命に子ども達が優秀な教育を受けて育って行って、大学に行って、さあ帰ってこようと思うと、就職先がない。という部分の、例えば市として大手企業なんかのいわゆるサテライト的なものとか、そういう誘致とかが進められるものなのか。新規でそういう事業的な次の世代に向けたなにか誘致みたいなことが進んでいるのか、経過があるのかということをお聞きしたいです。

○山田市長 今、片山津インターの前を整備していると思うんですが、あそこへ検討中という企業がございます。整備するんですからなるべく早くそちらの方に来ていただければということで、広く募集をしているところです。片山津インターの前が広がっていると思うんですが、かなり広い面積を今造成しています。

○山下委員 今年生まれた加賀市の子ども達が成人して、大学に行ったら帰ってくるのかと思うととても心配になっておりますものですから。ありがとうございます。

○園田課長 他、ございませんか。

○篠原委員 市長さんは前からふるさと教育の大切さということで、私自身も共感してそのとおりだと思っています。伺いますと、大聖寺実業高校がふるさと科というようなことを今検討している最中だそうです。もう今年度中のカリキュラムの中に入っているんじゃないか、総合的な探求学習の中の一部をふるさと科ということにするみたいですが、そういうことで、やっぱりその地元に残る子ども達にふるさと大切さというようなことを強調した、そういうカリキュラムをつくっていかうということがまず高校で起きてきています。小中学校はそのべ

ースとなるころなので、私自身も、大聖寺地区の小学校2校に関しては、クラブ活動の時間でふるさとの大切さ、すばらしい文化財、風習などを子ども達に伝えるということで、まちの先生として参加させていただいておりますけれども、ぜひ加賀市教育委員会も含めてあるいは加賀市全体として、ふるさと教育の大切さをもっと普及啓発させていくためにはどのようなことが大切かなということを市長さんお考えをお聞きしたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

○山田市長　私は、学校にこれ以上というか、カリキュラムが結構パンパンですよ。そういうところに新しいことを入れるというのは、さっきの話と反対の方になってしまうことだと思うので、例えば今あるいわゆる教科領域のところで、その授業の展開の中で、地域の先生を呼んでお話を聞くとか、それは教科の中でもできますよね。産業の中で、伝統工芸の苦労とかそんなお話を聞くこともできると思いますし、先ほどいわれたクラブ活動ですよ。クラブ活動ならば、例えば地域卓球クラブみたいなクラブをつくれれば子ども達はできるというようなところで、いろんな教科領域を使いながら、そこでできることを考えていく。あとは地域ですよ。地域の動きの中で例えば子ども会とか、郷土かるたを一生懸命にみんなやろうとしている地域もありますけど、そういうようなところで、地域がやるというようなことも考えられると思いますが、そういうところですかね。

○篠原委員　ありがとうございます。大聖寺地区でもまちづくりの中の生涯学習部の中で、例えば大聖寺ウォークとかそういうことをまちとしてもやっていますが、やはり子ども達の中に単発的にクラブの中でやるとかそういうことではなくて、やはり高校のカリキュラムみたいなかたちで、きちんとした位置づけが必要なんじゃないかなと私自身はかねがね思っているところなんです。例えば総合的な学習の時間の内容に関しても、いろんな各学校それぞれの独自の取り組みをやっているんですけども、例えば大聖寺なら大聖寺、山代なら山代のことをもっと探求してほしいのに、加賀市全体のことを探求している学校とかね。焦点がちょっと何かぼやけているんじゃないかなというところも日頃感じております。もちろんそれぞれの学校の大切な総合的な学習の時間のそれぞれの学校でつくっていくカリキュラムなので、それはそれで大変大切なことだと思うんですけども、やはり市としても教育委員会の文化課なんかともタイアップしながら、そういうかたちでどんどん職員を派遣していただいたり、そういうことをもっとやっていただければ、もっと子ども達がふるさとってすばらしいね、いいところだねと。以前市長さんが教育長さんのときに、市内を回って歩くとかそういうのも作られましたよね。全部で60カ所とか、そういうマップを作られましたよね。そこで何カ所か回ったら探検大使とかやっていらっしゃいますよね。ああいうことなんかをもっとアピールして啓発してほしいなと思いますし、何らかのかたちでやはり保護者を巻き込んだ中でのふるさと学習の大切さというのをもっと具体的に提案していただければ、加賀市の子ども達がもっとふるさとを愛するようになってくれると思います。だから山中節なら山中でやっているし、山中節くらいは習う機会があったらいいんじゃないかなとか思ったりもしますし、あるいは運動会なんかでも、最近よさこいソーランをよくやっている学校があるんです。よさこいソーランがなんの関係があるのかなとずっと思っているんで、それは各学校の取り組みなのでそれでいいんですけども、やっぱり地元の、例えば山代音頭をやるとか、そういうようなことを伝統的にまちの先輩がつながって行って、発表していってもらおうとか、やはり地域を巻き込んだふるさと学習

の中核を教育委員会あるいは市としても、市の観光も巻き込んで、活用も含めたところでぜひそのような運動をこれから具体的にしていいただければ大変ありがたいなというふうに私は思っていますので、またぜひ観光を含めて、文化課も含めて、それから学校教育も含めて幅広いところで、子ども達にふるさと学習の大切さ、ふるさとの良さを味わわせるのような、そのような活動をぜひ具体的に提案していただけないかなというふうに思ってます。よろしくお願いします。

○山田市長 篠原委員がずっとふるさと教育に対する思いが強いというのは、私もずっと感じていましたので、ただ私もふるさと教育、郷土教育というのは大切だと思っているので、そこはやはり学校教育に関することは教育委員会と一緒に、あとそのほか放課後とか、社会教育を巻き込むところは、また、分科会とか、観光も含めて検討できればいいかなというふうに思っています。

○篠原委員 まちづくりなんかもそれぞれ独自のいろんな祭りなどを含めてやっていますので、今、お金の問題でも少しずついろんなところで、補助金を出すから頑張ってもらってほしいとか、というようなこともどんどん今子ども達や祭りが縮小するかたちになってきていますので、やはりその地域の活性化も踏まえて、そのようなふるさとの大切さをぜひ感じられるような、子ども達に感じさせられるような、そのような加賀市にしていっていただきたいなと思っております。

○園田課長 ありがとうございます。目安のお時間が過ぎましたが、皆様どうですか。他にご意見等ございますか。

○山下委員 人口が減っている中で、各地方都市全部そうだと思うんですけども、やっぱり分母が減ればいろんな収入も、税収も減ったり、いろんなことをイベントするのも、規模が小さくなったりということで、悪循環していると思うんですけども、市として地域おこしの方を迎えたり、それからまた地元の方々になるべく地元に戻って子どもを育てるとか、人口増加策みたいなものが、どういうふうに具体的にやっていращやるのかなと。子どもを増やすこととそれから受け入れる場合、地域おこし協力隊の方々には本当に一生懸命、山中でもやっていただいておりますし、そういうのも含めて何か市として。

○山田市長 地域おこし協力隊は、今日は農業の関係で4名の方が県外から来ていただいて、果樹園の就労、令和6年度から地域おこし協力隊の農業支援ということ始めて、もう既に11人いращやるということで、本当に11人というのは大成功なんですけど、でもトータルの数からいうと、毎年、自然減で亡くなる方が、何百人もいращやるので、それで比較すればその減少をちょっとだけ緩やかにしてくださっているのかなというふうにして思いますが、本当に難しいと思うんです。前市長もいろいろな手立て、新産業を受け入れたりしながら、人口を増やそうというふうにして努力されていたということなんですけど、なかなかやっぱり成果として表れにくいのがこの人口減かなというふうに思っています。中学生の半分以上が市外の高校へ行くということで、先ほど高校の再編のお話もありましたが、高校の在り方というのを、考えてみる必要があるのかなというふうにして思っています。それがひとつですね。あと企業誘致、もちろん働くところがなければいけない。そういうようなところをしっかりとやっていく。それとあと一次産業の後継者が非常に少ないということなので、今、山田修路先生が来ていращいますので、アドバイスを受けながら、一次産業を元気づける、そして後継者がそこで就労

できるというようなこともやっていきたいなというふうにして思っています。

○篠原委員 最後をお願いしたいのは、この総合教育会議の開催です。我々は長年毎年せめて1回ぐらい市長さんとお会いして、総合教育会議を開きたいと思っていました。なかなかいろんな諸事情があったんだと思いますけども、今回は大綱を決めるということで、この会議を開いていただきました。大変嬉しく思っています。ぜひまた毎年最低1回は市長さんの顔を見てお話をさせていただきたいなと思っていますので、これは事務局の方にもお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○園田課長 他の委員さん、大丈夫でしょうか。特にないようであれば、本日の加賀市総合教育会議はこれで閉じたいと思います。本日はありがとうございました。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。